

2024年2月18日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解Ⅱ35「神を黙らせるな」

ハバクク2：18～20、Ⅱペトロ1：18～21

問96 第二戒で、神は何を望んでおられますか。

答 わたしたちが、どのような方法であれ神を形作ったり、この方が御言葉において命じられた以外の仕方では礼拝してはならない、ということです。

問97 それならば、人はどのようなかたちも造ってはならないのですか。

答 神は決して模造されえないし、またされるべきでもありません。被造物については、それが模造されうるとはいえ、人がそれを崇めたり、またはそれによってこの方を礼拝するために、そのかたちを造ったり所有したりすることを、神は禁じておられるのです。

聖書には「いまだかつて、神を見た者はいない」（ヨハネ1：18）とあります。そこには意味がありまして、つまり神さまは人間がその感覚をもって捉えうる存在ではないということです。永遠なるお方を、この限りあるわたしたちがイメージすることはできない。わたしたちが頭の中でイメージできるものは本当に限られたものに過ぎません。それにもかかわらず、わたしたちが神さまをイメージし、その像を作ることがなんと愚かしいことでしょうか。でもそのような失敗をしたのが他にもないイスラエルの民でした。出エジプト記第32章に金の子牛の話があります。モーセが神さまから十戒を授かるためにシナイ山に登って行った。しかしなかなか山から降りてきません。しびれを切らしたイスラエルの民は金の子牛の像を作ってそれを拝んだという話です。注意したいのはその時、その金の子牛を見たイスラエルの民は「これこそあなたをエジプトの国から導き上ったあなたの神々だ」（出エジプト32：4）と言いました。モーセの兄弟アロンはその時に「明日、主の祭りを行う」と言います。「主」は「ヤハウエ」ですからまことの神さまのことです。神さまを金の子牛に仕立てたのです。

誰も神さまを見たことはありません。でもイメージすることはできる。あるいはこんな神さまだったらいいなあという期待、願望はある。つまり神さまの像を作るといのは、自分の期待や願望の中に神さまを押し込めることに他なりません。いみじくもこの金の子牛は「鑄像」でした。「のみで型を作り、若い雄牛の鑄像を造った」（32：4）とあります。自分の願望、期待という型に神さまをはめ込む。そのようにして自分に都合のいい神さまを仕立てる。自分に都合のいい礼拝をする。そういう過ちをわたしたちは犯すのです。

わたしたちも像は作らなくても自分勝手に神さまのイメージを作り上げ、そこに神さまを押し込めようとする場合があります。世の中にあるご利益宗教は皆そういう本質を持っています。今は受験シーズンですが、やれ合格祈願だ、ここの神さまは学問の神さまだと言って拝むでしょう。自分の好み、願望に合わせて神さまを選びすぎる。それも自分好みの神を作り上げていることに他なりません。もしわたしたちもそのように神さまを自分好みに仕立てようとするならば、それは生ける神さまを物言わぬ偶像、死んだ神にしていることと同じなのです。わたしたちはそのように神さまを礼拝しているわけではありません。

問98 しかし、画像は、信徒のための書物として、教会で許されてもよいではありませんか。

答 いいえ。わたしたちは神より賢くなろうとすべきではありません。この方は御自分の信徒を、物言わぬ偶像によってではなく、御言葉の生きた説教によって教えようとなさるのです。

わたしたちはどうして物言わぬ偶像に仕立ててしまうのか。「わたしたちは神より賢くなろうとすべきではありません」とあります。それはわたしたちの心理をついています。アダムとエバが誘惑された時も「賢くなるように唆していた」（創世記3：6）とあります。神さまよりも賢くなろうとするとところに人間の罪の本質があります。ともすると自分たちが世界を作り、自分たちが神さまを作ったなどと考えることもある。そういう驕り、傲慢がある。今の世界はまさにそうでしょう。命も全て人間が支配していると考えているところがあるのではないのでしょうか。それは超えてはいけない領域へ足を踏み入れることなのです。そういう人間の傲慢を神さまは打ち砕かれます。人間は神さまに造られたもの、被造物なのです。決して神にはなれません。そのことを何よりわきまえる必要があります。

そしてここで重要なのは、神さまがわたしたちを「御言葉の生きた説教によって教えようとなさる」ことです。神さまは生きておられます。その生きているお方に従うからこそ、わたしたちもまた生きることができるのです。わたしたちが物言わぬ偶像を拝むなら、わたしたちもまた物言わぬ偶像、死んだ存在になってしまうでしょう。「偶像を造り、それに依り頼む者は皆、偶像と同じようになる」（詩編115：8）のです。わたしたちが自分の型にはめた偶像の神を拝むなら、わたしたちもまた型にはまった生き方、自由ではない生き方をしてしまうでしょう。神さまを自分に都合のいい存在にしているなら、わたしたちもまた人に対して自分の好みに合わせたり、自分の都合のいい存在に仕立てるようなことをしてしまうのです。神さまを信じることとわたしたちの生き方はつながっています。

誰かを物言わぬ人になっていることはないでしょうか。世の中の風潮は、どちらかと言うと、自由に意見を言ったり、発言をすることを嫌う傾向があります。総会なども意見が出ないことを歓迎することがあります。あれこれ口を挟んだり、意見を言う人、物言う人は面倒臭い。だから誰も何も言えなくする、意見を言えなくする。そこにパワハラが起こります。人を怖がらせ萎縮させて黙らせる。でもそうなるとその集団はやがて固定化し、それこそ偶像化していくでしょう。どこかの国では自由にもものが言えない。物言う人は抑圧され殺されてしまう。でもそういう国は死んだようになって、やがて滅びるでしょう。自由にもものが言えることは人間の権利です。

神さまはわたしたちから自由を奪うお方ではありません。十戒はエジプトの奴隷の状態から自由にされた人々が生きるために神さまが与えた御言葉です。その御言葉に聞く時に、わたしたちは自由を取り戻すことができるのです。そしてその本当の自由こそ、イエスさまという生ける神さまの御言葉によって与えられました。イエスさまはわたしたちの偶像を作り上げる罪をあの十字架で打ち砕いてくださいました。生ける命の御言葉を持って像のように死んでいたわたしたちを新しい命へ解き放ってくださいました。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」（マタイ4：4）その通りに、神さまの御言葉だけがわたしたちに命を与え、自由を与えます。

天の父よ。あなたを物言わぬ偶像に仕立ててしまう恐ろしい罪から自由にしてくださるために愛する独り子をお与えくださり感謝いたします。どうぞあなたの生ける命の御言葉によって、真実にあなたの御前に生きるものとしてくださいますように。主の御名によって祈ります。アーメン。